

13th Annual Educational Symposium and
Exhibition of Wound Healing Societyに参加して

札幌医科大学皮膚科 小野一郎



会場となったThe Seattle Westin Hotel

本年(2003年)5月4・7日にアメリカ合衆国ワシントン州のSeattleで開催されました米国Wound Healing Societyの13th Annual meetingに参加して参りました。水と緑に囲まれその美しさから「エメラルド・シティ」の愛称を持つワシントン州最大の都市、Seattleはご存じイチローの活躍するMarinersの本拠地です。私はゆっくり滞在するのは今回が初めてでした。Seattleは米国の西海岸の北に位置する港町19世紀の中盤

に入植者が入ったシアトル発祥の地であるパイオニア・スクエアを中心に市街地が作られています。ここではダウンタウン中心部で見られる近代的なビルとは対照的な古いレンガや石造りの建物が立ち並んでいます。これらの建物の多くは19世紀後半に建てられたもので、現在でもギャラリーやカフェ、書店などとして使われているようです。この辺りを中心とした市街地は路面電車が走り回り、無料で乗り降りができるバスも運行されており、住民はもとより観光客にも大変に移動しやすい町でした。ウォーターフロントには有名なmarket

Seattleの発祥の地
Pioneer square



ウォーターフロントに近く位置する
Market place



日本創傷治癒学会

2003.8
No.16

●日本創傷治癒学会事務局

〒160-8582

東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学医学部外科学教室内

tel. 03-3353-1211

(内線62269)

fax.03-3353-2681

e-mail: info@jswh.com

URL: <http://www.jswh.com>

placeがあります。迷路のようになった建物の中には、レストランやお土産物屋に混じって手品のgoodsを売る店、インド人の散髪屋など不思議な店舗が並んでいて大変に楽しめました。その周りの市街地は高層ビルが立ち並び人口が数十万と少ない割に大変に活気があります。これはおそらくは飛行機製造会社や有名なcomputer softの会社が近郊にあるからであろうと思いました。いずれにしても私はこの会期の前にMiamiで開催されましたSID(研究皮膚科学会)に参加してから訪ねましたので時差には少し参りましたものの落ち着いた佇まいの町並み、涼しい気候とおいしい食事に少しほっとしました。

さて、米国 Wound Healing Societyの13th Annual meetingですが、downtownに位置する大きなThe Seattle Westin Hotelで開催されました。会期の初日の4日はBasic Wound Careに関する教育Symposiumが終日開催されていました。残念ながら私は日程の関係から参加できませんでしたが多くの若手の臨床家が参加されていました。このような催し物は日本の学会でも毎年ではなくとも何年かに一度は是非企画していただければとも感じました。学会の本来の演題は翌5日から開始されました。

Cohen先生とEriksson先生と言う創傷治癒の研究分野での重鎮の先生の司会でYoung Investigator Award Presentationがすすめられました。おそらくは各labに属して研究を実際に進めている若手研究者が緊張した面持ちで、しかし落ち着いてcomputerを用いたpresentationを行いました。内容はgrowth factorのタンパクや遺伝子、細胞治療といったいずれも創傷治癒の最先端の分野の研究で大変に聴きごたえのある内容でした。しかし、研究方法や結果の解釈などにあやふやな点があるとすぐに会場から厳しい質問や批判が飛び出ると言う緊迫感のあるsessionでもありました。その後の一般演題のsessionが3会場を使用して同時進行の形ですすめられたのに対し、このsessionは1会場で、しかも他の会場でも全くプログラムがないので参加者は必然的にこの会場に集まって耳を傾けるという状況でした。しかも学会の最終日にはこの12演題から3演題が優秀演題として表彰され、研究助成金を授与されていました。昨年のBaltimoreで開催されたWHS-ETRSのJoint meetingでも同様のsessionがありましたが若手の研究者の研究意欲を高めるのには大変に良いやり方ではないかとあらためて感じた次第です。



今回の会長のDr. Steedの開会のご挨拶

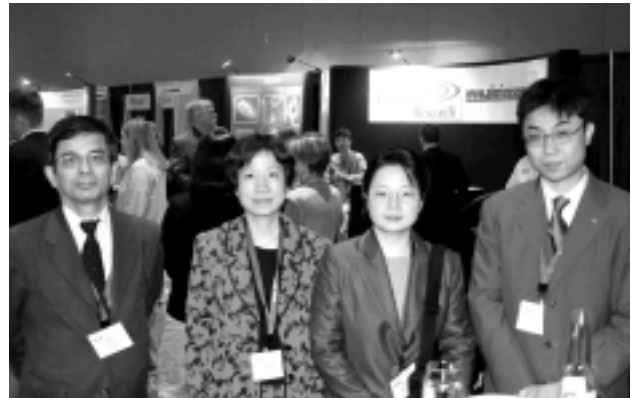


Dr. CohenとDr. Erikssonの司会ですすめられたYoung Investigator Award Presentation。

それに引き続く午後のsessionではさらに“senior”の研究者の発表がありました。この日の注目の演題はPlenary sessionとして地元のWashington UniversityのMoon先生とIsik先生がそれぞれMorphogen and Wound RepairとA role for Morphogen in Wound Repairという演題で発表がありました。このsessionではWntやhedgehogなどという組織形成において重要な役割を果たしていることが知られるようになっているMorphogenについて皮膚の創傷治癒の分野における、その基礎と現在までの研究成果、今後の展望が述べられました。やや基礎的な内容が多かったこともあり難解ではありましたがMorphogenは皮膚の付属器の再生や完全な人工的な皮膚の作成にも画期的な役割を果たすことが期待されるとともに一気に現実味を帯びてきていると感じられる講演でした。

それに引き続く一般講演でもStem cell/MorphogensというsessionでこのMorphogenについての研究演題がいくつも報告されました。これらの研究成果とstem cellを用いた研究成果を積み重ねると将来は表皮、真皮構造に加え毛嚢、脂腺などの皮膚付属器を含めて完全に皮膚を再生させることが近未来に現実のものとなるだろうと確信させるに足るものでした。私自身はこの点だけでもこの学会に参加した価値が十分と感じました。なお、このsessionでは長崎大学の秋田先生が間様系幹細胞とBMP、bFGFを用いた異所性骨形成に関して報告されていました。

翌日からの発表も興味深い演題がいくつも発表されていましたが3会場で同時に進行されていたので当然のことながら全ての演題を聞くことはできませんでした。しかし、1演題に15分と言う比較的長い



日本からの参加者(秋田先生が撮影して下さいました)。

発表時間が割り振られており、十分なdiscussionが行われながら次々に興味深い内容が発表されているように感じました。日本からは前に述べました秋田先生に加え、川崎大学の久保先生、篠山先生が御参加になり創傷治癒における接触因子の役割に関して大変に興味深い研究成果をご発表になっていました。私も学会2日目に縫合創に対するHGFの遺伝子治療に関して報告しました。

今回はSARSや戦争、さらに国際学会が重なっていたためもあって残念ながら日本からは5人だけの参加に留まってしまいました。次回の学会はParisで合同の学会が開催予定となっていますので是非この機会に日本からもより多くの研究者に参加していただき日本の創傷治癒学会で発表されている高いlevelの研究成果をご発表頂きたいと願っています。

学会開催中にWound Repair and Regeneration(WRR)のpublication meetingが開催され、私も慶応義塾大学の大谷先生の代理として参加いたしました。ここでも大きく話題になったのがWRRのimpact factorが非常に高く設定されたことでした。このことによっていろいろな分野の研究者からWRR誌に投稿が相次いでいることが報告され、当面は1

冊のjournalの掲載論文数を増やすことで対応するが将来的には月刊とすることも考えられるとのことでした。また、今年の8月からはinternet経由でonline 投稿が可能となるように準備をすすめている旨の報告もありました。なお、その席で今まではWRRの大半は基礎的研究の論文が占めていましたが今後は臨床研究の論文も積極的に受け付けたいとのLindblad 先生のご意向も明らかにされていました。当然、高いimpact factorを維持しながらどのようにこの意向を反映させていくかが議論となっていました。優れた臨床論文の持つ価値が高いことは言うまでもないことです。この分野で論文投稿を考えていらっしゃる先生にはこの機会にWRR誌に是非とも投稿していただきたいものです。

例によってafter fiveについてもご報告したいと思います。Seattleは日本でも多数の店舗展開をしているコーヒー店の発祥の地であり、大変に美味しいコーヒーを楽しむことができました。コーヒー好きの私といたしましてはうれしい限りなのですが、小さなカップで頼んでも量が多くていつも最後は持て余してしまう点ややはりアメリカ的なのだと感じたのは私だけでしょうか？ SeattleはコーヒーだけでなくいわゆるNorthwestern foodsが楽しめる町としても有名です。会場となり私が滞在したWestin hotel内にも有名なレストランがあり大変に美味しい食事を楽しむことができました。もちろん中華や和食のレストランも市内には数多くありました。

もう一つ大変に幸運だったことがありました。すでに皆様ご存じのようにSeattleはイチローの活躍するMarinersの本拠地ですが今年からアメリカに渡って活躍している松井選手が属しているNY YankeesとMarinersの3連戦が学会期間中にSeattleの



NY YankeesとMarinersの3連戦が実施されたSeattleのSafeco stadium。



球場での秋田先生と私。

Safeco stadiumで行われていました。今回も秋田先生と2人で試合の観戦に参りました。私自身は幸運にも2日目のticketを入手できましたので2日連続で試合を見ることができました。初日はイチローが活躍しMarinersが勝利を収め、2日目は松井がホームランと2塁打をはなつてYankeesが勝つと言う大変に面白い展開の試合を現場でみるという幸運に恵まれ日中の学会での興奮とはまた別の興奮を味わうことができ大変に充実した毎日を送ることができました。

私は前年のBaltimoreのWHS/ETRSの合同会議に引き続き、この度はアメリカで開催された創傷治癒の学会に参加することができましたが、今後の創傷治癒の研究の方向性を考える上で大変に貴重な経験となりました。参加者は300人以上で8題の特別講演、一般講演が91題、posterが42題、さらに企

業展示が24社と大変に充実した学会となっております。それらのひとつひとつについてはこの場で十分に述べることはできませんが数年前には夢物語と考えられていた皮膚の再生がMorphogenの機能を解析し、駆使することで現実的になるのではと感ずることができたことは私にとりまして大変に大きな収穫でした。もちろん既に日本でもこの分野での研究をおすすめの先生も数多くいらっしゃると思いますが、この面の研究を私自身も進めたいと決心して日本へ向かう飛行機に乗り込みました。

来年の創傷治癒に関する国際学会はWorld Union of Wound Healing Societies Meeting (<http://www.wuwhs.org/>)が2004年7月8日・13日にParisで開催されます。会期などの詳細につきましては本学会のニュースレターなどで詳しくお知らせになると思います。開催者の一人のDr. Staceyも多くの日本人研究者の参加を希望していることを伝えて欲しいとのことでした。また、来年のWHSのmeetingはAtlantaで5月23・26日に開催予定とのことでした。この文をお読み頂いた方はこれらの学会に是非とも参加を考慮していただきますをお願いしましてこの報告記を終えたいと思います。

来年7月にパリで開催される2nd World Union of Wound Healing Societiesに向けて

2004年7月に、パリで2nd World Union of Wound Healing Societies (2nd WUWHS)がTeot会長のもとで開催されます。米国のWound Healing Societyと欧州のEuropean Tissue Repair Societyは、それぞれの定期学術集会を行わず、Teot会長のもとで2nd WUWHSを共同開催する予定です。それだけこの学会に集中したいという狙いがあるものと思われませんが、日本から参加する我々にとっても、世界の第一線の研究者と意見の交換ができる素晴らしい機会になることは間違いありません。日本創傷治癒学会としましては、来年の定期学術集会はキャンセルしないことが昨年の理事会で確認されていますが、7月の2nd WUWHSには、ぜひ多くの会員の方々が参加されることを期待しています。

5月に開催されました準備委員会に参加された、本学会評議員・秋田定伯先生(長崎大学形成外科)の情報では、日本創傷治癒学会と日本褥瘡学会が

participating societiesとしてプログラムに組み込まれており、学会登録費、往復航空運賃、4泊の三ツ星ホテル代を含めた格安のパッケージが準備されるということです。また、40項目にわたるtopicsは非常に多岐にわたっており、分野としても、外科、皮膚科、形成外科、内科など、また対象も医師、基礎研究者、コメディカルなど幅広いもので、大変興味もたれます。

また、2nd WUWHSについての新しい情報が入り次第、ニュースレターやメールを通じて会員の皆様にお知らせいたしますが、詳細については2nd WUWHSのホームページ(<http://www.wuwhs.org/>)をご参照下さい。

第33回 日本創傷治癒学会のご案内(第3次)

第33回日本創傷治癒学会 会長 落合武徳(千葉大学大学院医学研究院先端応用外科教授)

第33回日本創傷治癒学会を下記の通り、開催いたします。

会員の皆様の多数ご参加をお願い申し上げます。

1 会 期: 平成15年12月9日(火) ~ 10日(水)

2 会 場: 千葉大学 けやき会館(西千葉駅徒歩5分)

千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学西千葉キャンパス

TEL: 043-290-2013

3. 参加費: 7,000円

4 演題募集要綱: 締切日: 平成15年8月29日(金)

採否・発表通知: 演題の採否と発表形式につきましては会長に一任願います。

発表日時は追ってご連絡いたします。

送付方法: 簡易書留にて1演題1封筒をご使用の上、ご郵送ください。

発表区分: 主題 : 褥創の病態と治療

主題 : ストーマ創傷治癒

主題 : 創傷治癒改善への基礎的・臨床的試み

一般演題: 創傷治癒に関するあらゆる演題

5 演題申込方法: 演題申し込みに必要な書類:

抄録オリジナル1部

抄録原稿コピー2部

・ のフロッピーディスク(テキスト形式に保存)

演題申込書1枚

返信用はがき2枚(演題名、連絡先などを明記の上、切手を添付して下さい)

抄録原稿作成上の注意事項:

- ・ 目的、方法、結果、考察、結語などの順に、出来る限り具体的なデータを含め、明確かつ簡潔にお書きください。
- ・ 抄録はワードプロセッサで作成し、必ず枠内に収めて下さい。
- ・ 抄録原稿はそのままオフセット印刷しますので、濃く鮮明に黒色印字して下さい。
- ・ 印字は12ポイント 細明朝体、1行18字詰、行送7ミリ、32行以内でお願いいたします。
 - 今回は、コンピューターを用いた発表方式は予定しておりません。
 - 演者の先生方は機関紙(Wound Repair and Regeneration)への英文抄録掲載のため、後ほどお送りするフォームに従った英文抄録を、学会当日、受付へ提出してください。

問合せ先

第33回日本創傷治癒学会事務局

住所: 〒260-8677 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学大学院医学研究院先端応用外科内

TEL: 043-226-2110 FAX: 043-226-2113

事務担当: 島田英昭 E-mail: hshimada@med.m.chiba-u.ac.jp